



健康寿命延伸に向けたビッグデータの活用を考えたフォーラム＝23日、東京都内

健康データ活用探る

弘大が都内でフォーラム

4大学共同解析を紹介

健康寿命延伸に向けたビッグデータの活用を考えるフォーラムが23日、東京都内で開かれた。弘前大学が「岩木健康増進プロジェクト」のデータを今年度から東京、京都、名古屋の3大学と共同で解析していることなどが紹介され、全国から集まった参加者約700

人が、大きな広がりを見せてる「弘前発」の取り組みに理解を深めた。

弘大は国の研究開発支援事業「革新的イノベーション創出プログラム（COI STR EAM）」の採択を受け、同プロジェクトのデータを解析し、疾患

の取り組んでいる。今年度からは東京、京都、名古屋の3大学とデータの解析チームをつくるなど取り組みの

幅をさらに広げ、今月の国の中間評価では総合結果「S」と高い評価を受けている。

フォーラムは、弘大の取り組みを理解してもらおうと弘大、県、弘前市が主催し、都内の開催は昨年続き2回目となった。

データを解析し、疾患の予測・予防法開発な

関係者によるパネルディスカッションでは、弘大COI拠点長の中路重之弘大大学院医学研究科教授が「COIを核にしながら、健康づくりを全県で盛り上げたい」と、本県の「短命県返上」への決意を改めて示した。

ついて、4大学のメンバーが説明。このうち、東京大学医科学研究所ヘルスイノベーションセンターの井元清哉教授は、同プロジェクトのデータを「世界のトップデータより内容が豊富」と評し、活用には強い意欲を見せた。

（長内忠光）